

2021. 8/19.

女王蟻は〜るか

東京都目野市にある、多摩動物公園で、ちよとした話題に
なっているのが、女王蟻を失った巣の展示だそうです。

展示されているのは「葉切り蟻」のコロニーです。とても興味深く、

その終焉の様子を見てもらうために、おえてそのままにしているそうです。

女王蟻は全ての蟻の生みの親であり、他の蟻は子供が産めません。
それで、女王蟻が死んだ後は、次々と寿命を迎える働き蟻の分、
群れの数が減少していくのです。

葉切り蟻は、役割分担をしているそうで、葉を切る係、その葉から、
菌を培養して栄養豊かな餌を作る係など、個体差により10を超える
分業制になっているそうです。

働き蟻が寿命で少なくなってくると、分業のバランスが崩れてしまい、
急激に崩壊へ進むようです。

それでも、多摩動物公園の巣は、現在でも女王の居なくなつたコロニーに
残された蟻たちは、廃れつつも、いつも通りの行動を続けている。のです。
この展示が、「自分たちの社会の縮図を見ているようだ」と話題に
なっているのだそうです。

では、あなたの店には女王アリは居ますかい？

もし、店が少しずつ廃れていくならば、女王アリは居ない状態です。
危険です。私達の社会に置き換えるならば女王とはリーダーであり、
一言で表現すると、「チームを組織して、成果を生む人」の事です。

どんなに仕事が出来ても、一人で動くのは限界があります。

蟻の巣の繁栄も、沢山の数を増やして、沢山の餌を集め、
強い蟻を生み出す事で強いコロニーになるようです。

店を管理している人が、売上げの下がる理由も、外部的要因や、人のせい
にはないでしょうか？

営業マンが成果を出してくれないから、

レンタル担当が解約を出すから、

少子高齢化が進んでいるから、

それでは、この先も同じ状況が続いて行くでしょう。

まずは、自分の責任で店が傾いているのを認め、問題負に取り組む

2021 8/19

1/02

解決にあたらなくてはなりません。

もし、本当に他人のせいならば原因となる人全員を早急に入れ替えなくてはなりません。それをしていないのも自分のせいです。

しかし、例えば入れ替えたとしても、その人が変わらない限り、同じ結果が待っていることでしょう。

更に、世の中のせいにするならば、少子高齢化が終わるまで待つとか、

景気が良くなるのを待つ、なんて話ばかり出て来てしまいます。

それでは終焉を待つコロニーそのものです。

働いている人は不安になるのではないのでしょうか？

売上げが下がる = 純減しているから = もっと営業しろと強く言えばいい。

このパターンを繰り返して来たならば、その方法では解決は出来ず、

既に通用しない事を認めるべきです。

自分の分析と工夫、チャレンジや努力が不足しているのが原因です。

本当の問題解決をするには、

- ・ 問題がどこにあるのか？
- ・ その問題の原因は何か？
- ・ では、どうすれば良いか？

を順に広く考え、絞り込み、深く掘り下げて、打てる手を考えられるだけ考え、計画的に実行する必要があります。

そこまでやっているのでしょうか？

この言話は各ルート単位にも当てはまる事です。

私たちの顧客は、放って置いたら女王虫蟻が死んだ巣のように、徐々に減って行きます。これは避けられません。

ただいつも通り運ぶ交換作業を繰り返すと、多摩動物園のハキリアリの展示コロニーのように消滅してしまいます。

自分の顧客を自分のコロニーと考えるならば、レンタルを担当している人は、女王虫蟻にならないうちに、数を減らさないよう、ゴツゴツと生み出す事も意識する必要があるのではないのでしょうか？

2021. 8/19

10.3

どんなに良いお客様でも、ずっと続く契約はあり得ません。
寿命が尽きる時に必ず来るはずで。

会社全体を見て、繁栄していても、一部分が廃れ続けて行くのは
辛いものです。全体が活気に溢れて、生き生きとした環境にしたいもので、
虫蟻の巣といった自然の中からも、様々な学びが得られます。

身の引き締まる思いをしたニュースでした。
まるで太宰治の「斜陽」も、虫蟻の社会と、自分の会社に見たようでした。